

着mono通信

yoroduya

2025・11
vol.86



よろぢ屋
着物・和のこと Salon

原町本店
〒975-0003
南相馬市原町区栄町2-83
TEL: 0244-24-2929

いわき店
〒970-8026
いわき市平三倉69-8 第2地産ビル1F
TEL: 0246-85-5298

みなさまこんにちは！ようやく秋の深まりを感じる良い季節になりました。着物を着るには最高の季節ですね。朝晩はすっかり冷え込んでいますのでそろそろ寒さ対策も必要ですね。

「羽織やコートはいつ頃から着たらいいのですか？」と質問されることが多々ありますが、一般的には「紅葉が色づいてから桜が咲くまでの間」と言われています。それでも昨今の気候変動では、紅葉も遅く、桜は早くのような季節になってしまっていますが、なんとなくその辺かなという認識でいいと思います。やはり、山が赤く色付く頃は少し肌寒く、上に一枚羽織りたくなるものです。決まり事に囚われすぎずに、ご自分の体感や心地よさで着物を楽しみましょう！

< 米沢織 新田さんの工房を見学しました！ >

10月初めに、米沢織の新田さんの工房を訪れて、紅花染や米沢織の工程を見学させていただきました。歴史ある建物は、はた織り機の声であふれていました。



織機の声が鳴り響く工場では、手織りの作業も行われていました。明治から続く米沢の織元の新田さんは、紅花染めをはじめとする自然染料で糸を染め、染めから織りまで一貫して仕上げるその仕事は、まさに米沢織の真髄です。気品ある色の深みと絹の艶は11月13日から3日間原町本店にてお披露目します！どうぞお手に取ってご覧下さい。



紅花染の実演を見せていただきました。紅花の摘み取りは、毎年7月上旬から中旬にかけて行われるそうです。この頃、黄色い花が咲きはじめ、やがて花の中心が橙から赤へと変わっていきます。この「咲きはじめの朝」が、最も染料としての質が高いとされています。一株から採れる花はわずかで、1キロの花から取れる紅はほんの数グラムしかないということです。——まさに「紅一匁（べにいちもんめ）」という言葉の通りですね。



♪ 和のことサロン ♪



原町本店にてつまみ細工教室をスタートしました！9月は3名の参加者のみなさんで基本の花を作りました。好きな色の生地を選んで、配色を考えてつまんでいく作業にみなさん夢中になりました。次回は、11月の第4木曜日に開催します。お気軽にご参加ください。

- ・はた織り教室（原町本店）
11月は13日（木）、14日（金）、15日（土）の予定です。
お問い合わせは原町本店まで 0244-24-2929

- ・組紐教室についてはいわき店までお問い合わせください。
0246-85-5298

< お客様コーディネート紹介コーナー >

当店のInstagramやFacebookなどで紹介させていただいております、お客様のコーディネートはこちらのコーナーでもご紹介します！

紫色の小紋に、同系色の型染めの染め帯でワントーンコーデ。小物のトーンを明るめにする事で、差し色になり、深い紫の更紗柄が映えるコーデです。



ベージュの江戸小紋に大島紬の袋帯。袋帯は、お太鼓の柄として、屋久杉のチップを織り込んだ貴重なもの。シンプルですっきりとした着こなしです。



紺柄に無地の八寸帯。無地の帯が、着物の柄を邪魔せずに活かしています。ベージュと茶色でトーンは違いますが同系色の組み合わせが素敵です。



ブルグレーの色無地に博多の八寸帯。少し透け感のある博多は単衣の季節の優れもの。色を使いすぎず、シンプルなコーデでまとめています。

<きもの語 辞典>ひの巻

着物に関して、わからない言葉や知りたい言葉などたくさんあると思います。専門用語が飛び交う中で??に思うことも多々ありますよね。そんな着物にまつわる言葉を集めて簡単にご紹介していくコーナーです。

<引き染め（ひきぞめ）> 染織技法の一つです。布地に、染料を刷毛で染める方法で、「刷毛染め」ともいいます。手描き友禅、蠟けつ染め、小紋染、型友禅染めなど地色染めに多く用いられています。

<浸し染め（ひたしぞめ）> こちらも染色技法の一つです。染料の溶液に布地や糸を浸して染め上げます。色褪せた古着を、地色より濃い色の浸し染めで再生することができます。

<比翼仕立て（ひよくじたて）> 和裁用語の一つで、着物を2枚重ねて着ているように見せるために、着物の衿、袖口、振り、裾まわし部分を二重に仕立てること。明治・大正時代の頃まで重ね着をしていた名残です、現在では留袖に多く用いられています。

<きもの歳時記>

～知って楽しい和の知識～

八寸帯と九寸帯の違い

帯の名前にある「八寸」「九寸」は、織り上がった時の幅のことです。八寸は約30cm、九寸は約34cmの帯です。八寸帯はもともと袋状に織られているため、かがるだけで使えるのが特徴です。軽くて締めやすく、紬や小紋など普段のおしゃれ着にぴったりです。一方の九寸帯は一重で織られているため、裏地をつけて仕立てる必要があります。帯芯が入るのでハリがあり、きちんとした印象に仕上がるのが魅力です。小紋や色無地など、少しあらたまった装いにも向いています。気軽に楽しむなら八寸帯、上品にまとめたい時は九寸帯など、TPOに合わせて使い分けると、帯選びがぐっと楽しくなります。



・・・女将のつぶやき・・・

私ごとですが、先月無事に54回目の誕生日を迎えました。名古屋にいる次女も帰省して、長女と2人で夕食とケーキを準備してくれました。お客様からもたくさんの差し入れがあり、食卓のテーブルは隙間もないほど食べ物でいっぱいでした（笑）レベルアップしたものの、上がっているのは血圧とコレステロール値というなんとも不摂生な私ですが、これからはますます元気いっぱい頑張りたいと思います！ちなみに、原町店スタッフの裕美ちゃんと、いわき店の齊藤さんも10月生まれ！みんなレベルアップしました。

